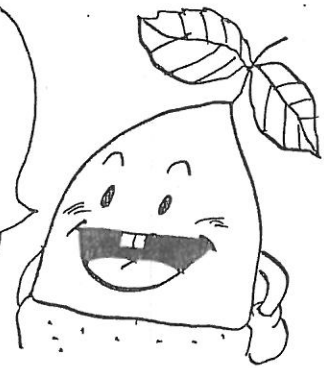




いま
 今まで
 いじめについて
 いっしょに考えて
 くれてありがとう。
 いじめのない世の中を
 作るには、一人一人の
 人間が違ふことの
 よさを認め合う
 ことなんだ。
 下の詩をじっくりと
 何回か声を出して
 読んでほしい。
 コロコロりん。

わたしと ことりと すずと

わたしが りようてを ひろげても、
 おそらは ちつとも とべないが、
 とべる ことりは わたしのように、
 じべたを はやくは はしれない。

わたしが からだを ゆすつても、
 きれいな おとは でないけど、
 あ のなる すずは わたしのように
 たくさん うたは しらないよ。

すずと、ことりと、それから わたし、
 みんな ちがって、みんな いい。

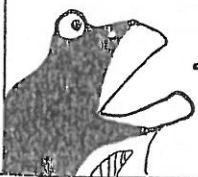


絵・上野紀子

金子みすゞ童謡絵本
 「ほしと たんぽぽ」 JULA出版局より



童謡詩人・金子みすゞ 1903年（明
 治36年）山口県仙崎生まれ 郡立大
 津高等女学校卒業 20歳のころ下関
 に移り住み、童謡を書き始める。主
 として雑誌『童話』に投稿し、「お
 魚」「大漁」「つゆ」など、次々と
 ユニークな作品を発表した 西條八
 十に、「若い童謡詩人中の巨星」と
 期待されるほど抜んでた才能を示し
 ていたが、26歳の若さで世を去った。
 今、半世紀もの間埋もれていた遺稿
 が見出され、注目をあびている。



みんな ちがって
 みんな いい...



子どもたちへの手紙

世界中に一人しか
いないあなたへ

死なないで！

世界中で

あなたを

いちばん好きな

あなた

そのあなたが

あなたを

死なせないで！

こんな暗い言葉で

あなたと

話さねばならない私たち

それでも私たちは

あらゆる知恵と

ひとりの人間としての魂をもって

ひとりの人間としての

あなたに語りかけます

死なないで！

あなたを

死なせないで！

私たち学校の先生や教育にかかわる二万人が集まって、いじめでつらい思いをしているあなたのことを話しあい、あなたへの呼びかけを上の人にまとめました。いじめられてつらい時、自分の良いところを思い出して下さい。

そうして自分のことを好きになってほしいのです。自分をおいつめ、自分をいじめないで下さい。あなたは、ほかの人と同じように、世界に一人しかない大切な人間なのですから。

いじめは自分ひとりでは解決できません。だれにも打ち明けられないいじめはずっと続きます。いじめによって、ふみにじられ、ふみつけられたら、だれでも心が深くきずきます。それを人に話すには勇気がいります。

人に言うてはいけないというのは、いじめる人が勝手につくったきまりです。でも、あなたのことを何よりも大切に思っている人がいます。家族やこれまでにほめてくれた人、なかまたちがそうです。そして学校の先生たちも待っています。話をしてくれば、かならず解決します。

あなたは私たちの未来であり、私たちの希望です。どうか私たちといっしょに今の問題を解決し、楽しい学校をつくりましょう。

一九九六年二月四日

N C E R 第45次全国教研参加者一同

1996年2月13日(火曜日)

日 教 組 教 育 新 聞

第2188号



文 部 省 からのメッセージ

緊急アピール
～かけがえのない子どもの命を守るために～

平成8年1月30日
文部大臣 奥田幹生

1 いじめについて、私は、今、子どもたち、お父さん、お母さん、学校の先生方、地域の人々に対して、かけがえのない子どもたちの命を守るため、強く訴えたいと思う。

② まず、全国の子どもたちに訴えたい。君たちは、どんなことがあっても、自らの命を絶つことはあってはならない。苦しいことや悩みごとがあっても、それに屈せず、強い気持ちをもって、これからの素晴らしい人生を送ってほしい。悩みがあるときは、決して自分の胸の中にとどめて悩みぬいたりしてはいけない。お父さん、お母さん、先生、先輩、友だちなど誰かに相談してほしい。悩みを打ち明けることは、決して恥ずかしいことではない。相談する勇気をもってほしい。そして必ず誰かが相談に乗ってくれるということを忘れないでほしい。

③ いじめている子どもたちに言いたい。弱い者をいじめることは絶対に許されないことなのだ。軽い遊びやふざけだと思っているかもしれないが、君たちの言葉や態度が、いかに人の心を傷つけ、苦しみを与えているかということに気づいてほしい。

そして、全国の子どもたちに訴えたい。いじめをはやしたてたり、傍観したりすることも決して許されないことだということを覚えてほしい。

4 私は、お父さん、お母さん方にも訴えたい。どうか、我が子の姿をよく見つめ、いじめのシグナルを発していないか、細心の注意を払ってほしい。そのためには、できる限り子どもと共に過ごし、話し合い、苦しんでいる子どもが相談できるようにしてほしい。そしていじめに気づいたら、子どもの話をよく聞いて、苦難を乗り越えていく勇気を与えてほしい。

また、他の子どもをいじめることがないように、いじめは絶対に許されないということを、家庭の中でも十分話し合ってください。

5 全ての学校の先生方には、深刻ないじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうるものであることを訴えたい。いじめの問題を現下の最大の課題として取り組むよう訴えたい。いじめられている子どもを守り通すということと言葉と態度で示し、毅然と対応してほしい。そして何よりも、子どもたちとできる限り多く接し、子どもたちに信頼される人間関係をつくり、いじめの発見や予防に努めることが大事である。いじめを発見したら一回や二回の指導で事足りりとするのではなく、かえっていじめが陰湿になり、深刻化することもあることを認識し、何回も何回も継続して指導を行うべきである。また、校長と相談し他の教師や養護教諭の協力を得たり、保護者と連絡をとって、最大限いじめの解決に当たってほしい。

6 各学校の校長は、いじめは絶対に許されないこと、理由の如何を問わず死んではならないこと、必ず誰かに相談することを、繰り返し、直接子どもたちに訴え、学校のすみずみ、子ども一人一人の心にまでいきわたるよう指導してほしい。そして、先頭に立ってこの問題の解決に最善の努力を傾けていただきたい。

7 最後に、地域の大人の方々には、市や町や村のかたすみでいじめが起きていたら、見て見ぬ振りをするのではなく、みんなで手を携えて、いじめを許さない働きかけをしていただきたい。PTAや青少年教育、スポーツ活動などに携わっている方々には、そういう活動を通じて、いじめは許されないこと、いじめに負けず、どんなことがあっても自ら死を選ぶようなことのないよう指導をお願いしたい。

8 文部大臣として、衷心から以上のようなお願いをする次第である。私も、いじめの問題の解決に向けて、引き続き学校における指導の徹底、家庭・学校・地域社会が一体となった取組の充実など最大限の努力を払う決意である。

